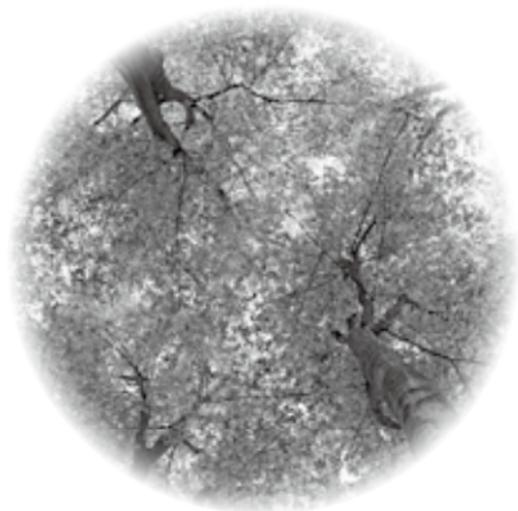


# 栄村に栄えあれ2



山口真一 著  
協力 栄村教育委員会

## 心が温かくなる村

フリーアナウンサー 戸田山 貴美



私が初めて栄村を訪れたのは令和二年（二〇二〇）一月。当時勤めていた長野放送（NBS）の取材で滞在しました。

この地を訪れて感じたことは二つ。「素晴らしい自然や文化の数々」と「人の繋がりと温かさ」です。

豪雪地帯で知られる栄村。東京出身の私にとって雪は馴染み深いものではありませんでした。

見たことがないほど高く積もった雪、芯から冷える寒さと澄んだ冬の空気、雪の中から顔を出すフキノトウ。そのどれもがこの地の魅力を演出し、心を豊かにさせてくれました。そして小正月の伝統行事「どうろくじん」に参加したとき、村人から顔に炭を塗られて最初はかなり驚きました。しかし、お互いの幸せや健康を願って炭を塗るということを知り、より一層この村のことが大好きになりました。

また、食べ物が少し余れば近所の人に配る、食堂に行くと皆が知り合い同士で挨拶の言

心が温かくなる村

フリーアナウンサー 戸田山 貴美

① 加工用トマトを育てる専業農家の一徹魂

〈宮川頼之の章〉……………1

② 駅前旅館女将・家族の絆

〈吉<sup>よし</sup>楽里美の章〉……………25

③ 栄村の地下水は地元を潤す

〈福原 初の章〉……………51

## 村内唯一の加工トマト生産農家

豪雪の栄村にはスキー場もある。

平成九年（一九九七）にオープンした村営の「さかえ倶楽部スキー場」だ。

グレンデのスケールこそ広大ではないが、初心者から上級者までグレードを問わず楽しめる九つのコースを備えている。山頂まで行き着けば、秘境・秋山郷にそびえる二大名山・苗場山（標高二一四五メートル）と鳥甲山（標高二〇三七メートル）が望め、千曲川の流れを眼下に見下ろしなら滑り降りる眺めには、えも言われぬ爽快感がある。スキーレジャーそのものが、昭和と平成初期ほどの熱気を失いつつあるが、この長野県最北のスキー場の中級コースは、知る人ぞ知るコアな醍醐味があるという。村民にとっては冬の楽しみや憩いの場として、あわせて冬季間の仕事の場として地域振興の一翼を担っている。このグレンデに付随するレストハウスは、二〇〇人以上を収容できる充実した施設だが、レストラン一番の人気メニューは一風変わっている。

トマトつけ麺。

トマトをはじめ具が盛りだくさんの麺に真つ赤な色のつけ汁が、見た目に強いインパクトを与える。他所にはないもの珍しさも手伝って、「栄村に来た記念に一度食べてみよう」

## 著者紹介

---

山口真一（やまぐち しんいち）

長野県長野市生まれ

信州大学大学院修士課程修了

1992年第2回長野文学賞（評論部門）受賞

1998年第7回新風舎出版賞ノンフィクション部門最優秀賞受賞

2004年第1回創栄出版賞奨励賞受賞

著書に

『全員野球 中村良隆監督物語』

『ワンと鳴くカエル 信州・根羽村「カエル館」物語』

『翔べ！カッセイカマン ローカルヒーローの聖地 信州・下條村の逆風への挑戦』\*

『信州駒ヶ根ソースかつ丼物語 ご当地グルメに託したまちおこし』\*

『信州・伊那ローメン物語 「食」から広がる町おこし』\*

『信毎「やまびこ」50年 信州にこだます三行のユーモア』

『栄村に栄えあれ 信州最北の村にたぎる人々の力』\*

『茶白山パワースポットの謎 信州・根羽村カエル館物語Ⅱ』

ほか。

※ほおずき書籍刊

---

## 栄村に栄えあれ2

2022年12月12日 第1刷発行

著者 山口真一

発行者 木戸ひろし

発行元 ほおずき書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原 2133-5

☎026-244-0235

[www.hoozuki.co.jp](http://www.hoozuki.co.jp)

発売元 株式会社星雲社（共同出版社・流通責任出版社）

〒112-0005 東京都文京区水道 1-3-30

☎03-3868-3275

---

ISBN978-4-434-31386-8

乱丁・落丁本は発行元までご送付ください。送料小社負担でお取り替えします。

定価はカバーに表示してあります。

本書の、購入者による私的使用以外を目的とする複製・電子複製及び第三者による同行為を固く禁じます。

©2022 Shinichi Yamaguchi Printed in Japan